

【第1号議案】

2021年5月30日

令和2年度事業報告書

1. 事業活動方針

- (ア) 認定 NPO 法人の目標や活動内容を周知し、一般市民からの賛同を得るよう努め今後の寄付活動の準備を進めた。賛助会員の募集キャンペーンを実施。
- (イ) 小田原城天守を木造で復元するために必要な調査や関連事業を実施。
- (ウ) Web や SNS を通して広く木造復元の周知活動。またイベントを開催して普及活動を実施。

2. 事業内容

(ア) 小田原城天守木造復原に関する普及事業

① 小田原城天守調査研究プロジェクト（次ページ参照）

- 1. 天守木造復原に必要な研究、人材育成、資金検討等の具体的な課題への解決案を提案していく為の研究活動。

(イ) その他この法人の目的を達するために必要な事業

- ① 昨年度に引き続き継続的に天守木造復原に係わる市当局との調整を図り、天守木造復原に必要な(FS: Feasibility Study(可能性検証検討))研究を行なった。
- ② 当会の Web サイトや SNS、紙面による「お城通信」等にて活動内容の周知や普及活動を行なった。

以上

1. 研究内容

本研究室は2018年度に策定した研究概要に則り、随時調査・研究を継続している。2020年次(2020.6～2021.5)は主に、「小田原城三重引図」と「東大模型」「大久保神社模型」の実測調査及び史資料調査を行った。

(ア) 主な調査・研究

① 「小田原城三重天守引図」の実測調査

本図の詳細な調査はこれまで行われておらず、改めて実測調査を行い図面化した。現在、実際の設計寸法やディテールの表現などについて考察中である。

② 「東大模型」「大久保神社模型」の実測調査

小田原市所蔵の2基の模型について、主に構造躯体に特化した実測調査を行った。「東大模型」については予備的な調査に止まったが、「大久保神社模型」は図面化まで行い、今後引図などの他史料との比較検討を行っていく。

③ 「東大模型」の柱番付について

当該模型に付された番付が特異であることから、制作年代を明らかにするために、江戸前期以降に建立された関東地方の社寺や全国に残存する櫓等の番付調査を行っている。

(イ) 研究成果

上記についてこれまでの成果と今後の課題を示す。

- ① 「小田原城三重天守引図」については、定説としての基準柱間(6.5尺)では説明が付かないため検証中である。また柱脚部などを表現したディテールも特徴的であるため、本図が実際に設計図だったのかの検証も含めて考察中である。
- ② 「東大模型」は再度の実測調査を小田原市に依頼、調整中である。「大久保神社模型」は引図と同様に基準柱間の検討が不可欠であり、小屋組も特異であると判断できるため、改めて当時の制作意図を加味した考察が必要である。
- ③ 「東大模型」の柱番付についてはまだ明確な成果は得られないが、今後も対象範囲を拡大して調査していく。従来説よりも制作年代が下る可能性がある。

2. 今後の活動

(ア) 模型調査について

引図と上記2基の模型の検証を行った上で、来年「東博模型」の実測調査に繋げ、現存史料の総合的な比較検証を進捗させていきたい。

(イ) 史資料調査

小田原市との協働の下、所蔵史料などについて引き続き調査を行っていく。

以上